

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつとり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ  
令和3年1月14日 現在

作物名	生育状況等	今後の見通しと対策	
麦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全般的に出芽と初期生育は順調。12月中旬以降、積雪を伴う低温の影響で生育がやや停滞しており、積雪や一部滞水が見られる。倉吉市10月28日播種「しゅんれい」は、6.2葉期で幼穂長2mmとなっている。一部で、スズメノテッポウやトゲミノキツネノボタンなどの雑草の発生が見られる。</li> <li>・農業試験場11月6日播種「しゅんれい」においては、1月6日に幼穂形成期を迎えた。近年は暖冬傾向で12月中(過去5年平均は12月27日)に幼形期を迎えていたが、本年は年明けとなった。節間伸長はまだ確認されていない。播種後2か月(1月7日)の生育調査では、葉色、葉齢、茎数は概ね例年通りで進んでいるが、草丈は低く推移している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に排水溝を確認し、必要に応じて排水溝の手直しや、追加設置を行うなどして、滞水が見られる場合は速やかに排水を促す。</li> <li>・第一回目穂肥の施用時期が早いと精麦率が低下するので時期を守って施用する。</li> <li>・雑草の発生が多い場合には、麦の生育や収穫に支障が生じる場合があるので時期を失しないように茎葉処理剤による防除を行う。</li> </ul>	
果樹	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>(雪害対策)</li> <li>・引き続き雪害に注意する。</li> <li>・棚上に積もった雪は早めに払い落とす。(栽培管理)</li> <li>・近年になく降雪が多い。作業遅れとならないよう、せん定作業を進める。</li> </ul>	
	かき	同上	
	ぶどう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年、ハウスの被覆が早い園では1月下旬～2月上旬にビニール被覆が開始されている。</li> <li>・本年は積雪が定期的であり、例年以上に雪害の発生が心配されるので、気象情報等を確認しながら被覆準備が行われる見込み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(雪害対策)</li> <li>・ハウスの被覆にあたっては気象情報を十分確認して実施する。</li> <li>・雪害に注意する。</li> </ul>
野菜	白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>12月中旬、年末、年始の積雪により葉折れが多発。積雪の多い地域はほ場がまだ雪で覆われており出荷が停滞。出荷中の秋冬ねぎは県下全域で雪害規格対応となっている。</li> <li>【春ねぎ】</li> <li>・生育は例年並みで順調であったが、降雪による葉折れが多発している。</li> <li>【夏ねぎ】</li> <li>・トンネル作型は12月中旬より被覆を行ったが年末年始にかけての強風および大雪の影響で、めくれ・つぶれが見られる。無トンネル栽培は積雪による葉折れが多発している。</li> <li>【秋冬ねぎ】</li> <li>・徐々に肥大が進み2L規格以上多くなっていたが、積雪により葉折れが多発。ロープ等で雪害対策しているほ場は、葉折れ等は比較的少ないが、対策が不十分なほ場は葉折れ、しわ等の被害が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春ねぎ、夏ねぎは生育が遅れる見込み。融雪後に追肥を行い回復を促す。また、殺菌剤を散布し病害発生防止に務める。</li> <li>・秋冬ねぎで葉折れ被害がひどいものは、融雪後、追肥して新葉の伸びを促し、回復してから収穫する。また収穫が遅れるため、抽台に注意し計画的に収穫を進める。</li> <li>・小菌核腐敗病の防除を徹底する。</li> </ul>
	ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> <li>【秋冬どり】</li> <li>・出荷進捗は12月末で計画の55.4%で昨年同時期より1割程度少ない。</li> <li>・積雪により中～下位葉が折れている。また、年明けの低温で花蕾の凍結が生じており、出荷できないものもあり、品質低下を生じている。</li> <li>【初夏どり】</li> <li>1月中旬から播種が始まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ積雪で覆われて被害状況が確認できないほ場も多く、当分、品質低下が続く見込み。融雪し収穫可能になり次第、収穫を行う。</li> <li>・初夏取り作型の育苗は高温とならないよう、ハウス内の温度管理に注意を払う。</li> </ul>
	らっきょう	<ul style="list-style-type: none"> <li>福部地区の12月25日の生育調査結果では、前年及び平年と比較すると地上部、地下部とも生育が遅れており、積雪の影響と思われる。株あたり球数が1.9(平年比76%)、分球芽数については、7.48芽/株(平年比75%)と少ない。</li> <li>北栄地区では12月16日からの降雪以降、年末年始の降雪で積雪下の状態が続いており、生育が停滞している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・融雪後は白色疫病の防除を行う。</li> <li>・分球芽数が少なく、最終分球数が少なくなると予想されるため、年明け後の追肥を増肥し分球を促す。</li> </ul>
	促成トマト	<ul style="list-style-type: none"> <li>大原地区の促成トマトは12月上旬定植のもので1段目1番花の果実が3cm程度に肥大し生育は例年並み。1月8日の低温で、低温障害とみられる葉の黄化、アントシアニンが出ている。また積雪等でハウス換気ができなかったため、一部で灰色かび病が発生している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低温障害が発生したほ場は葉面散布とハウスの保温で草勢回復を促す。</li> <li>・灰色かび病防止のため、防除と換気を徹底する。</li> </ul>
	にんじん	<ul style="list-style-type: none"> <li>順調に生育し収穫が進んでいたが、積雪で葉が押しつぶされ機械収穫ができず手掘りで収穫。積雪、低温による障害は見られていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫遅れで過肥大とならないよう努める。</li> </ul>
	いちご	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1花房果の収穫終盤から第2花房果の収穫初盤となっている。概ね順調だが、第2花房の出蕾が遅れているほ場も見られ、出荷がやや谷間となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハウスサイドの積雪は速やかに除雪し、換気ができるようにする。</li> <li>・葉かき及び摘果を適切に行い、適度な草勢の維持を図る。</li> <li>・ハダニが増加しないよう防除を徹底する。</li> <li>・低温でミツバチの活動が低下しないよう、ハウス内の温湿度管理を徹底する。</li> </ul>
花き	シンテッポウユリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>【東部地区】</li> <li>・供給不足が心配されていた種子は無事供給され、露地咲き作型の播種は12月末～1月中旬にかけて行われた。</li> <li>【中部地区】</li> <li>【倉吉市】</li> <li>・露地咲き作型の播種は1月中旬から始まっている。</li> <li>【北栄町】</li> <li>・今年から3戸が露地咲き作型の育苗を花壇苗生産者に委託した。12月26日に播種し、現在発芽始めとなっている。</li> <li>・抑制作型の収穫は終盤。出荷は週1回で、日量200本、単価100円。凍害被害は少ない様子。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低温のため発芽遅れが心配される。</li> <li>・晩生系統は2月上旬播種の予定。</li> <li>・中部地区では新系統の試作を実施予定。早生系3系統、中生系3系統、晩生系6系統。</li> <li>・高温に関する早期天候情報が発表されているため、25℃以上にならないようハウス内の温度管理に注意する。</li> </ul>
	ストック	<ul style="list-style-type: none"> <li>【東部地区】</li> <li>【鳥取市】</li> <li>・新規就農者1名が彼岸出しを目指して栽培中。播種が早かった(9月中旬)ため、一部開花しているものが見られる。1月7日からの寒波による凍害は発生していない。</li> <li>【中部地区】</li> <li>【倉吉市】</li> <li>・全体の約5割が収穫終了。</li> <li>・1月上旬の寒波で凍害(葉に壊死=白い斑点)が発生し、通常の出荷が困難となった生産者が1件あり。</li> <li>【北栄町】</li> <li>・1月7日からの寒波により、葉に斑点(壊死)や花卉の萎れ等の凍害症状が一部で見られる。発生は1～2割程度と思われる。葉に凍害症状の見られるものは程度により等級を落として出荷可能。花に症状があるものは出荷不可となった。</li> <li>・出荷量は日量SD2～3万本(単価65～85円)、SP1万本(80～95円)。年末はSD105円、SP110円で例年どおり高値だった。</li> <li>・年内出荷量は計画比でSD54%(目標60～70%)、SP71%でSDがやや遅れている。</li> <li>【西部地区】</li> <li>・南部町で収穫・出荷が始まる。</li> <li>・西伯地区で若干凍害が発生している。(1～2%程度)。それ以外は目立つ病害虫なく順調。</li> <li>・大山町では草丈、太りも良好。ほ場での病害虫の発生は少ないが、低温で開花が進まない状況。凍ったほ場があるが、今のところ褐変等の症状は目立っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も一時的に低温が予想されるので、可能であればストーブを準備する等対策する。</li> <li>・来週以降、気温が暖かくなれば、出荷量が増える見込み。</li> <li>・高温に関する早期天候情報が発表されているため、ハウス内の温度管理に注意する。</li> <li>・今後も低温による凍害が懸念される。</li> </ul>
イタリアンライグラス等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イタリアンライグラス</li> <li>【鳥取・八頭地区】</li> <li>播種は例年どおり実施された。降雪前は越冬可能な程度に生育していた。現在は積雪のため生育状況は把握できない。</li> <li>【東伯地区】</li> <li>積雪のため、多くのほ場で調査できず。積雪のない箇所での生育は良好である。</li> <li>【大山地区】</li> <li>積雪による葉枯れ等は現在確認できない。</li> <li>【西部地区】</li> <li>年末からの積雪のため、状況把握不能。</li> <li>○エンバク</li> <li>【大山地区】</li> <li>積雪による雪枯れ、倒伏が確認された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○イタリアンライグラス</li> <li>【全地区】</li> <li>融雪後に生育状況等を確認する。</li> <li>○エンバク</li> <li>【大山地区】</li> <li>雪解け後に被害確認を行う。</li> </ul>	